

2022 年度 滋賀会第 2 回定例研修報告

- 実施日 2022 年 6 月 26 日（日） 下見日 6 月 18 日
- 場所 高島市マキノ地区 黒河峠付近
- 行程 マキノ駅 9:35—黒河林道駐車場所 10:00—黒河峠ブナ林 13:40 昼食 14:15—
15:00 キンコウカポイント—15:50 峠トイレ—16:30 駐車場所—マキノ駅 16:45
- 参加者 小西 梶谷 高橋 平田 高森 橋木 6 名

＜研修報告＞

本日は、4 月 24 日第 1 回研修から約 2 か月後となり、ほぼ同じコースを歩きました。梅雨入りしたものの今年は雨が少なく、異常な高温が続いていました。当日は標高もあり危険な暑さではない中で、たくさんの植物を観察することができました。開花しているものはやや少ないものの、みずみずしい緑の葉と若い果実がたくさん見られました。黒河峠周辺の豊かな植生を改めて実感しました。なお、画像は出現順ではなく、似たものを並べたり、カエデ類をまとめるなどしました。

◇駐車場所～黒河峠



ヤマブキショウマ〔バラ科ヤマブキショウマ属〕
多年草。雌雄異株。葉は 2 回 3 出羽状複葉。葉がヤマブキに似る。



トリアシショウマ〔ユキノシタ科チダケサシ属〕葉は 3 回 3 出複葉。展開前の 3 出複葉が鳥の足状。



オオバギボウシ〔キジカクシ科ギボウシ属〕
若いつぼみが橋の欄干につける擬宝珠に似る。若芽はウルイと呼ぶ山菜。



**オオバキシ
ミレ**〔スミレ
科スミレ属〕

実↑

花も咲いて
いた。→



ミズタビラコ〔ムラサキ科キュウリグサ属〕



ホクリクタツナミソウ〔シソ科タツナミソウ属〕



エゾアジサイ〔アジサイ科アジサイ属〕
日本海側に多く、集散花序がヤマアジサイより2倍程大きい。



ヤマアジサイ〔アジサイ科アジサイ属〕
花は直径10cmまでの集散花序。真ん中に両性花、周辺に装飾花。



ムラサキシキブ〔シソ科ムラサキシキブ属〕
つぼみが開花し始めている。花冠は4裂し平開する。



ミヤマガマズミ〔ガマズミ科ガマズミ属〕 葉がデカデカなのでコンテリがつく？
実は球形で秋に赤熟する。果実酒に。



アオハダ〔モチノキ科モチノキ属〕
内皮が緑色 短枝がよく発達する。実は球形で赤熟する。



クロモジ〔クスノキ科クロモジ属〕
雌雄別株。花序は有柄で黄緑色。実は黒熟する。



クマシデ〔カバノキ科クマシデ属〕
葉状の果穂が垂れる様子が四手に似ている。3種の中で1番大きい。



アカシデ〔カバノキ科クマシデ属〕
葉状の果穂がまばらに垂れる。



イヌシデ〔カバノキ科クマシデ属〕
今回見つからなかったが、果穂は下垂し葉状の果苞は外縁のみ粗い鋸歯。



アカイタヤ〔ムクロジ科カエデ属〕
日本海側の山地に多い。雌雄同株。
翼果は鈍角～鋭角。



ヤマモミジ〔ムクロジ科カエデ属〕
多雪地域に分布。欠刻状の重鋸歯。葉
柄上面に溝。翼果は小さくほぼ直角。



オオモミジ〔ムクロジ科カエデ属〕
日本海側の多雪地を除いて広く分布。
鋸歯は細かく整っている。翼果は鈍角。



ウリハダカエデ〔ムクロジ科カエデ属〕
樹皮にウリに似た模様と菱形の皮目。
雌雄別株まれに同株。翼果は直角。



斑入りの**ウリハダカエデ**は珍しい。



ウリカエデ〔ムクロジ科カエデ属〕
樹皮にウリに似た模様。葉は小さい
雌雄別株。翼果は水平に開く。



ハウチワカエデ〔ムクロジ科カエデ属〕
冷温帯に多い。葉柄は短く白色の軟毛。雄
花と両性花が混生。翼果は水平～鈍角。



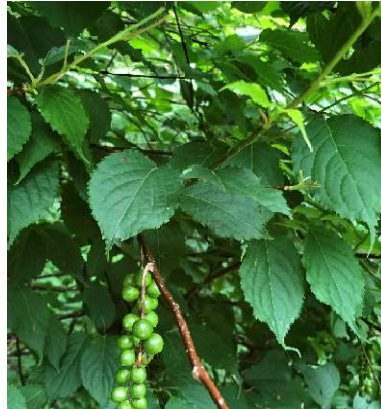
コハウチワカエデ〔ムクロジ科カエデ属〕
冷温帯に多い。葉柄は長く、有毛。
雄花と両性花が混生。翼果は水平。



ヒツバカエデ〔ムクロジ科カエデ属〕
葉は切れ込みなく先は短く尾状に尖る。
雄花と両性花が混生。翼果は鋭角。



サルナシ〔マタビ科マタビ属〕
つる性。雌雄別株。楕円形の液果は
香りよく美味（和製キーウフルーツ）



キブシ〔キブシ科キブシ属〕
雌雄別株。葉の展開前に花序を垂らし、
液果は楕円状球形でタンニンを含む。



シロダモ〔クスノキ科シロダモ属〕
暖温帯を中心に分布。雌雄別株。葉
は全縁で3脈が目立つ。裏面白い。



コバノイシカグマ〔コバノイシカグマ科コバ
ノイシカグマ属〕
シダ植物。鹿が食べないので増えている。



シライトソウ〔シュロソウ科シライトソウ属〕
根生葉の縁は細かい波状。茎頂に総状花
序をだし白花を多数つける。



イワタバコ〔イワタバコ科イワタバコ属〕
葉は根際につき、春は小さく縮んでい
て伸びるとタバコの葉に似る。



ケケンボナシ〔クロウメモドキ科ケンボナシ属〕
秋に花序の軸をかじるとナシの味。西日本に
毛が多く鋸歯の目立たないものをケを付けて
区別した。



ケケンボナシ 樹皮
網目状の縦の割れ目が多い。アカメ
ガシワの樹皮に似ている。



トチノキ〔ムクロジ科トチノキ属〕
葉は掌状複葉で小葉は5～9個。中
央の小葉が最も大きい。



イワガラミ〔アジサイ科イワガラミ属〕
つる性。装飾花の萼片は 1 個。葉の鋸歯は片側 20 個以下。



バッコヤナギ〔ヤナギ科ヤナギ属〕
イワガラミに巻き付かれている。花序や果穂がないとヤナギとわかりにくい。



タムシバ〔モクレン科モクレン属〕
噛むと甘い「噛む柴」から。日本海側多雪地に多い。



ミズメ〔カバノキ科カバノキ属〕
樹皮は桜に似た横に長い皮目あり、傷つけるとサロメチール臭。



ナツツバキ〔ツバキ科ナツツバキ属〕
つぼみが銀色に光ってたくさんついていた。白い花は大きく開く。



ナツツバキの樹皮
滑らかで独特のパッチ模様。



ミズナラ〔ブナ科コナラ属コナラ亜属〕
堅果は 1 年成でこれから大きくなる。葉は粗い鋸歯。葉柄ごく短い。



アカガシ〔ブナ科コナラ属アカガシ亜属〕
2 年成なので今年熟す実と来年熟す実の両方見られる。葉は全縁で葉柄長い。



ブナ〔ブナ科ブナ属〕
堅果は 3 稜形で殻斗の中に 2 個入る。成葉は両面無毛。



キハダ〔ミカン科キハダ属〕

対生で奇数羽状複葉だが、たまに偶数も。内皮が鮮黄色。漢方薬の原料。



ヤマボウシ〔ミズキ科ミズキ属〕

花から実へ。4枚の白い総苞片が落ちた集合果も見える。赤熟すれば美味。



コアジサイ〔アジサイ科アジサイ属〕

花から実へ。飾り花がなく、すべて両性花。葉には大きな三角状の鋸歯。



オニツルウメモドキ〔ニシギギ科ツルウメモドキ属〕

やや高所に生え、蒴果は球形。



オニツルウメモドキの葉裏

互生で葉が大きい。縁に浅い鋸歯。裏面の脈が畝状になっている。



オオツルウメモドキ〔ニシギギ科ツルウメモドキ属〕の葉裏

互生で裏面の脈上に縮れた毛が密生。



キリ〔キリ科キリ属〕

林道の中に生えていて、よくよく見るとキリでした。幼樹なのでまだ花も実もなし。



クマヤナギ〔クロウメドキ科クマヤナギ属〕

ややつる性。花は複総状花序で実は翌年の夏に赤〜黒に熟す。葉がヤナギに似る。



サイコクキツネヤナギ〔ヤナギ科ヤナギ属〕

よく見ると裂開した蒴果が見える。近畿以西に分布。雌雄別株。



マルバアオダモ〔モクセイ科トネリコ属〕
実は倒披針状形の翼果。マルバと付くのは葉の鋸歯が低くて不明瞭なため。



アズキナシ〔バラ科アズキナシ属〕
実はナシ状果で秋に赤塾し、表面に白い皮目が散生する。



カラスシキミ〔ジンチョウゲ科ジンチョウゲ属〕
赤い実がミヤマシキミに似るのでこの名。雌雄別株。日本海側に多い。



ムラサキマユミ〔ニシキギ科ニシキギ属〕
常緑低木。対生。6～7月葉腋から弓なりに伸びて暗紫色の花を下垂させる。



ナガバモシイチゴ〔バラ科キイチゴ属〕
本州中部地方以西に分布し、モシイチゴとすみ分けている。どちらも美味！

■ 黒河峠からキンコウカポイント周回



ブナ 芽生え（本葉）



ウラジロハナヒリノキ〔ツツジ科ハナヒリノキ属〕
ハナヒリノキの変種で日本海側の多雪地の山地に生育。小ぶりの葉は両面とも粉白色。



ハナヒリノキ〔ツツジ科ハナヒリノキ属〕
近畿以北の山地に分布。総状花序から蒴果へ。ハナヒリとはくしゃみのこと。



モリアオガエルの卵塊



フデリンドウ〔リンドウ科リンドウ属〕
雨滴による種子散布後の姿。根生葉は小さくロゼット状にならない。



キンコウカ〔ノギラン科キンコウカ属〕
山地の湿原に群生。総状に多数の花。葉は中脈から折りたたまれ、表面が裏。



崖一面の**キンコウカ**大群落は実ごたえ十分！



モウセンゴケ〔モウセンゴケ科モウセンゴケ属〕
日当たりのよい湿地に多く、葉は長い根生葉。腺毛があり粘液を出して虫を捕える。



モウセンゴケの花
ボケていて見にくいですが、花茎の先に白い花を総状につけています。



サラサドウダン〔ツツジ科ドウダンツツジ属〕
花序は垂れるが果実は上向き。葉の裏面側脈の基部に赤褐色の毛。



フウリンウメモドキ〔モチノキ科モチノキ属〕
雌雄別株。長い花柄の先の白い花が核果となり秋に赤く熟す。



画像がもっと悪くて載せられなかったものがたくさんありました。そして最後に集合写真を撮るのを忘れました。左の画像の中に5名を見つけるのは難しいですね。すみません！
秋には樹木や野草の紅葉・黄葉、熟した果実の観察を楽しみにしたいと思います。

報告：橋木啓子